

## 授業中のアシストについて

皆さんは、美術の授業で生徒にどのようにアシストされていますか？  
教えなければならないことを踏まえながらも、生徒とはなるべく良い関係  
でいたいと思い、私はこんな方法をとっていました。

私は主に高等学校で美術を担当していたのですが、いつも迷っていたことがありました。それは、授業中にどれ位アシストしたら良いかということでした。高等学校ともなると、興味・関心や意欲、技能に相当な違いが生じています。

また、性格的にも積極的に質問をする者もいれば、シャイで反応が読み取りにくかったり、かまわれること自体を嫌ったりする場合があります。どの辺まで関わったら良いかを、神経を研ぎ澄ましながら感じ取るようにするのですが、うまくいかないこともあります。生徒の気持ちを知るうまい方法がないかと考えたのが、次に紹介する「アドバイスランク」<sup>1</sup>です。

生徒には、事前にこんな風に趣旨を説明しました。

「本来、何事も自分で発見することが望ましいと思います。自分で見つけたという喜びはもちろんですが、何よりも自分のものになりやすい。でも、それには多くの経験や失敗をする時間が必要です。学校では、たくさんのことを効率的に学ぶため学習をガイドします。美術の授業では、体験することが基本ですが、そのガイドを最小限にするためにこのアドバイスランクを活用してください。」

- A ランク … ヒントが欲しい
- B ランク … どちらの方がよいか、相談したい
- C ランク … 例を示してほしい
- D ランク … その他

**A ランク** … できるだけ自分で考えてみたが、どうしても手掛かりがつかめないのでヒントが欲しいということで、意欲的な場合が多い。ヒントの後、自分で考えていけるようなアドバイスにしたい。

**B ランク** … 幾つか考えてみたが、どれが最も適しているか迷っているということで、考えが深まっていることが多く、アドバイスする場合はその理由もできるだけ詳しく説明するようにしたい。

**C ランク** … これは、具体的な答えが知りたいという場合に多い質問だと考えられる。できるだけ複数の例を示すようにして、その中から選択できるようにアドバイスしたい。

**D ランク** … これは、どれにも当てはまらないもので、「これでもういいですか」や「これ以上できません」、「どうしたらいいですか」などの場合は、自分の考えをもう少しはっきりさせるようにアドバイスしたい。



A～Dのランク表を黒板に貼って趣旨を説明し、「君はどのランク？」と聞きます。生徒は、自分の質問したいことをまとめ、「〇ランクで、お願いします。」と相談します。

実際の授業では、Dランクの「これでもういいですか」という質問が結構多く出ます。どうせ自分には無理だからというあきらめの気持ちや、自信がなく先生の評価を気にしたり、ここまでやったのだからもう終わらせてくださいと許可を求めたりする場合があります。

これらについては、質問の内容がどういう目的で行われているのかをよく確認した上で、実現できる目標を再設定させ、意欲を喚起させる話題を提供するようにしました。

本来、完成したかどうかは自分で決めるべきもので、設定した目標が達成できたのかも自分が判断すべきものです。しかし、実際には最も多く、そして返答に困る質問の一つでもあります。

この指導方法を導入するようになってから、生徒の望んでいることを把握しやすくなりました。また、生徒の方も自分の相談したいことを整理でき、そのことに答えてもらえるという安心感をもてるようです。対応への時間が短縮できることもありがたいですが、受け答えの際の行き違いが少なくなるので生徒との信頼関係が深まるのが最も嬉しいことです。



次に、芸術短期大学で現在行っている方法を紹介します。

芸大ですので、自分の表現スタイルをもっている学生も多く、中学校や高等学校とは少し雰囲気の違いがあります。しかし、技能面で高いレベルをもつ者もいれば、基本的な技術を習得できていない場合もあります。どんな学生にも通用する方法はないかと考え、次のように問いかけることにしました。

「何か困っていることはありますか？ 今から順番に廻っていくので質問があればしてください。」

アシストが必要な学生は案外素直に質問してくれるし、必要でない学生ははっきりとその旨を伝えてくれます。自分の番が来るまで質問を考えることができるし、なるべくみんなに聞こえるようにアドバイスすると、前の人の情報を得ることもできます。

1コマ(90分)の授業で2,3回行っていますが、全員を廻れるように一人当たりはなるべく時間を短くしています。学生からの授業アンケート(数年前から授業評価を年2回実施、教員の通知票です)では、「定期的に声をかけてもらえるので、気軽に質問できて嬉しい。」と好評です。

この方法は、簡単な割には教科や年齢を問わず効果的な手法だと思いますので、皆さんも是非試してみてください。



(中川 賀照 奈良芸術短期大学)

<sup>1</sup> ガシヨウさんの美術教育「教えないように、教える」美術教育の実践、資料編、Ⅱ役立つ資料、資料2「アドバイスランク」<http://gasho.jp/siryoyu/yakudatu/advaise%20rank/page001.htm>